

心とからだのいきいきキャンペーン



平成18年度 第1回

「心とからだ いきいき(食・読・遊・寝)キャンペーン」

推進会議

日時 平成18年 5月19日(金)

午後2時から

場所 県立図書館 2階 大研修室

日程

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 説 明
 - ・ キャンペーンの意義・取組内容・アンケート調査結果について
 - ・ キャンペーン強調月間、今後の展開について
- 4 意見交換
- 5 そ の 他
 - ・ とっとりの教育について
- 6 閉 会

心とからだいきいき(食・読・遊・寝)キャンペーン推進会議加入団体、出席者一覧

	団体名	出席者名	
PTA 関係	鳥取県PTA協議会	上原 幸穂	
	鳥取県高等学校PTA連合会	上田 泰範	
	鳥取県私立中学高等学校PTA連合会	野田 修	
	大正小学校PTA	伊藤 善則	
	灘手小学校PTA	武田 信江	
	上灘小学校PTA	石田 昭博	
	東小学校PTA		
	余子小学校PTA		
	南部中学校PTA		
	日野中学校PTA		
保護 者会 等	倉吉西高等学校PTA		
	久松小学校教育友会	伊藤 幾子	
	浜村小学校教育振興会		
	山形小学校父母と先生の会	酒本 裕司	
	丹比小学校教育の会		
佐治中学校一日(ついたち)の会	塚田 洋子		

16

	団体名	出席者名	
学校 教育 関係 団体	鳥取県小学校長会	山本 正人	
	鳥取県中学校長会	国富 一朗	
	鳥取県高等学校長協会	山内 有明	
	鳥取県私立中学高等学校校長会	山根 文司	
	鳥取県公立幼稚園園長会	重山 宣子	
	鳥取県私立幼稚園協会	栄田 由紀子	
	鳥取県小学校体育研究会	寺本 努	
	鳥取県中学校教育研究会 道徳部会	塚田 洋子	
	鳥取県学校図書館協議会	高田 節子	
	鳥取県学校栄養士協議会	白間 三幸	

10

	学校	出席者名	
学校	明德小学校	金克 利明	
	岩美西小学校	山本 正人	
	船岡小学校		
	勝部小学校		
	灘手小学校		
	安田小学校		
	和田小学校		
	西伯小学校		
	高草中学校		
	桜ヶ丘中学校	国富 一郎	
	青谷中学校		
	岩美中学校		
	三朝中学校		
	鳥取緑風高等学校	内田 英樹	
	倉吉総合産業高校		

15

	団体名	出席者名	
経済 団体	鳥取商工会議所		
	米子商工会議所		
	倉吉商工会議所		
	境港商工会議所		
	鳥取県商工会女性部連合会	森 洋	
	日本青年会議所鳥取ブロック協議会		

6

	団体名	出席者名	
企業 ・ 報道	西日本旅客鉄道(株)鳥取鉄道部	池本 辰義	
	山陰合同銀行 鳥取県庁支店	鹿津 昌明	
	朝日新聞鳥取支局		
	読売新聞鳥取支局		
	日本経済新聞鳥取支局		

5

	団体名	出席者名	
社会 教育 等 関係 団体	鳥取県公民館連合会	福本 幹久	
	鳥取県連合婦人会	船越 紀子	
	鳥取県子ども会 育成連絡協議会	馬屋原 育子	
	日本ボーイスカウト鳥取連盟	岡田 一壽	
	鳥取県スポーツ少年団	川口 一彦	
	鳥取県食生活改善推進員連絡協議会	井勝 道子	
	鳥取県市町村教育委員会研究協議会	中宇地 昭人	
	青少年育成鳥取県民会議	井嶋 泰雄	
	青少年育成伯耆町民会議	松本 政和	

9

	地教委	出席者名	
地 教 委	鳥取市教委	中宇地 昭人	
	米子市教委	村井 正	
	倉吉市教委	大羽 省吾	
	岩美町教委	谷口 謙	
	若桜町教委	盛田 恭司	
	智頭町教委	加藤 憲雄	
	八頭町教委	西田 明登	
	三朝町教委	大丸 満壽	
	琴浦町教委	岡本 敏明	
	"	入江 淑恵	
	"	山口 順子	
	北栄町教委	浦川 真理	
	大山町教委	狩野 実	
	南部町教委	田村 勝年	
	日南町教委	弓場 弘之	
	江府町教委	松井 英樹	

14

合計 加入団体75、出席団体51

	職名	氏名	
県 教委	県教委教育長	中永 廣樹	
	県教委教育次長	福井 伸一郎	
	県教委次長	林 昭男	
	参事監兼高等学校課長	山口 和彦	
	教育総務課長	福本 慎一	
	小中学校課	日下部 衆理	
	家庭・地域教育課	横山 ひとみ	
	体育保健課 課長補佐	小西 慎太郎	

	職名	氏名	
県 教委	総務部教育・学術振興課長	福田 忠司	
	福祉保健部子ども家庭課長	宮内 武幸	
	" 主事	石崎 学	
	福祉保健部健康対策課健康増進係長	坂本 裕子	
	東部教育局生涯学習推進係長	徳田 達志	
	中部教育局次長	信組 義彦	
	西部教育局生涯学習推進係長	鷲見 寛幸	
	教育総務課教育企画室長	三王寺 由道	
	" 副主幹	棚田 一夫	
	" 指導主事	塩谷 真一	

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」の意義

現状

- 近年、子どもたちの実体験不足や基本的な生活習慣の未定着、活字離れ等が指摘されている
- 県内の児童生徒については、基礎学力調査・特別体力テストを実施した結果、生活習慣と学力・体力との間には強い相関関係のあることが明らかになってきた
- 本来家庭や地域が果たすべき機能が学校に担わされる傾向にある

県 心とからだ いきいきキャンペーン

- ①しっかり朝食を食べよう
- ②じっくり本を読もう
- ③外で元気に遊ぼう
- ④たっぷり寝よう
- ⑤長時間テレビを見るのはやめよう
- ⑥服装を整えよう

高校生マナーアップさわやか運動
家庭教育推進協力企業制度 など

家庭・地域の大人が
子どもたちと
しっかりと向き合う

市町村

PTA、NPO
など各種団体

家庭・地域・学校が、
それぞれの役割を果たす

効果

家庭（保護者）

- ① 家庭の果たす役割を再認識する機会となる。
- ② 子どもの生活習慣・生活リズムが定着して、子どもの本来持っている力が高まる。
- ③ 思いやりの心やルール・マナーを守る気持ちなど、豊かな心を育む。
- ③ 親子のふれあいが多くなり、家族の絆が強まる。

学校（教員）

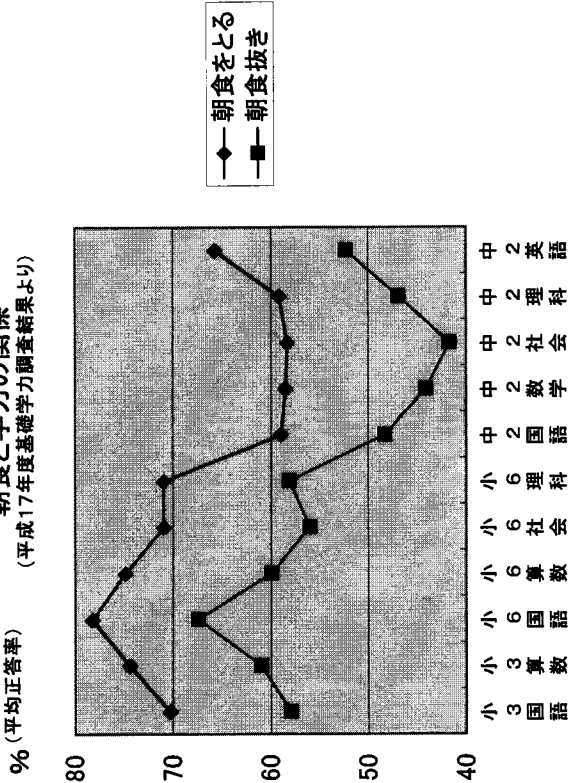
- ① 家庭で躰や基本的な生活習慣の定着がなされれば、教員は本来の教育（教科学習や部活動）に専念できる。
- ② 保護者との連携や信頼関係が高まる。

地域

- ① 地域の大人が地域の果たす役割を再認識する。
- ② 子供たちが、自分たちの地域に愛着を持ち、地域を知ることにつながる。

朝食と学力の関係

(平成17年度基礎学力調査結果より)



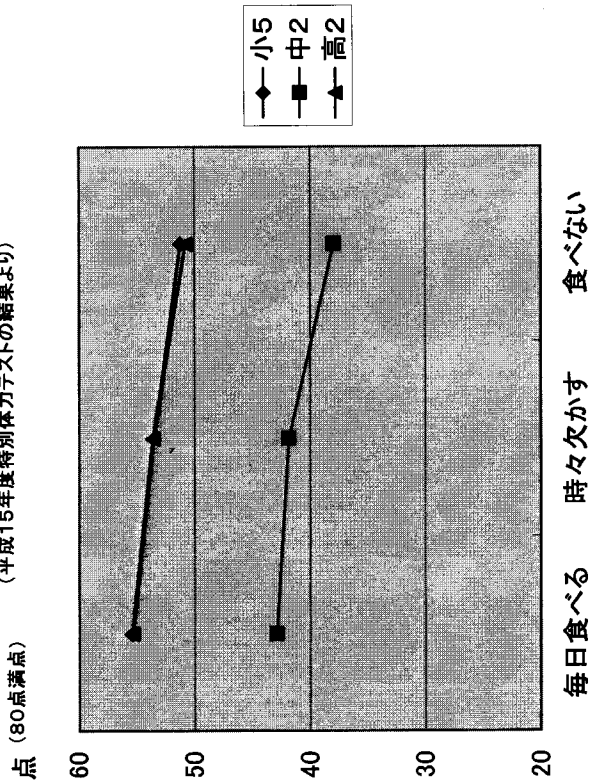
本調査結果は、「心とからだ いきいき(食・読・遊・寝)キャンペーン」ホームページのキャンペーンデータ集に掲載していません。

ホームページアドレス

<http://www.pref.tottori.jp/kyouiku/ikiikikyanpen/deta/index.htm>

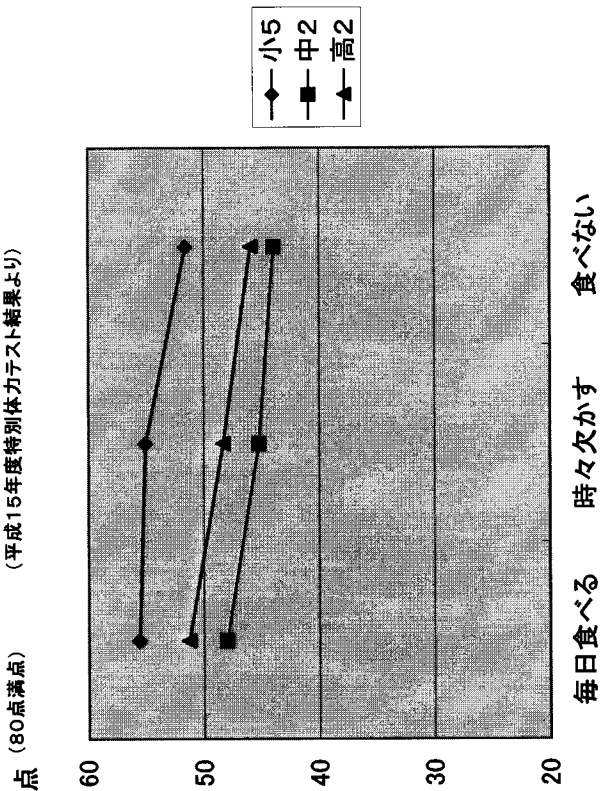
朝食と体力の関係(男子)

(平成15年度特別体力テストの結果より)

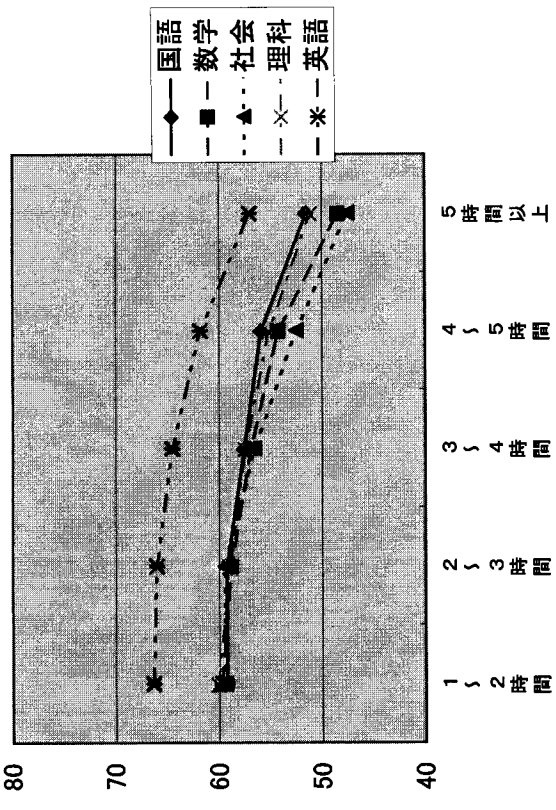


朝食と体力の関係(女子)

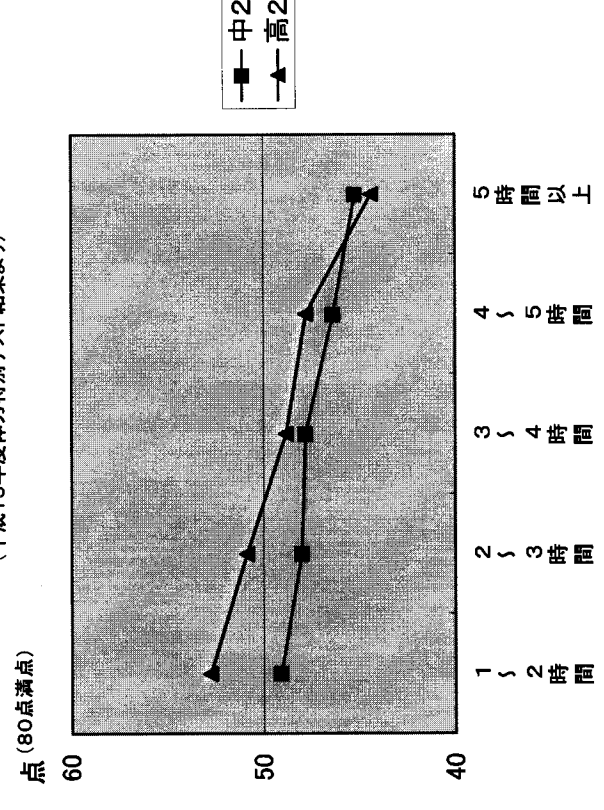
(平成15年度特別体力テスト結果より)



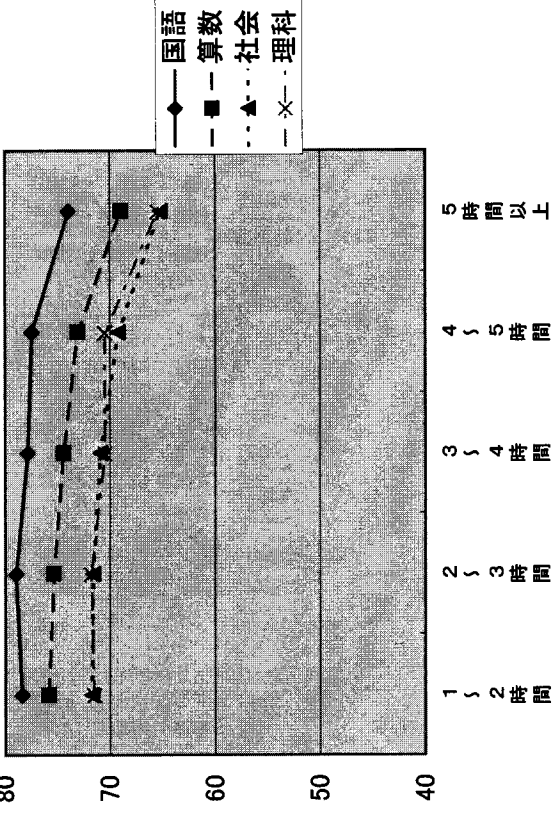
テレビ視聴時間と学力の関係(中2)
(平成17年度基礎学力調査結果より)



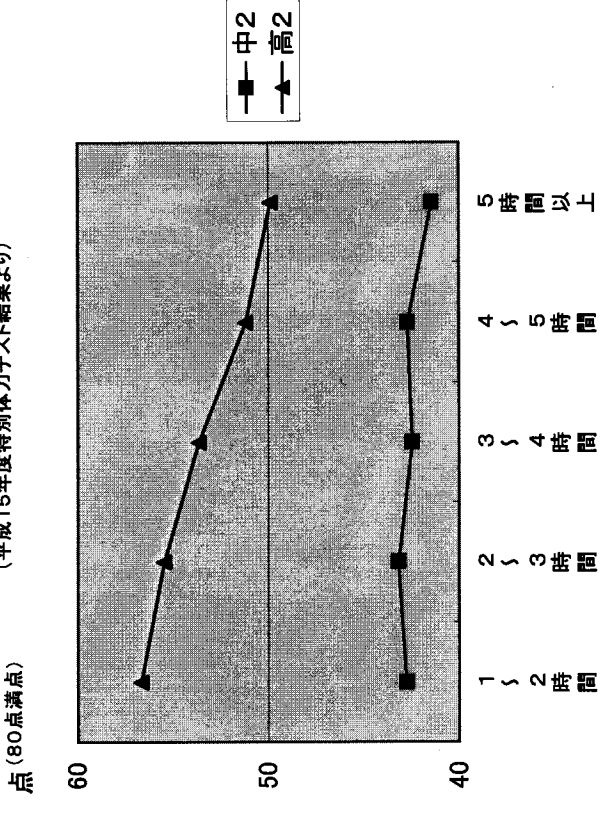
テレビ視聴時間と体力の関係(女子)
(平成15年度体力特別テスト結果より)

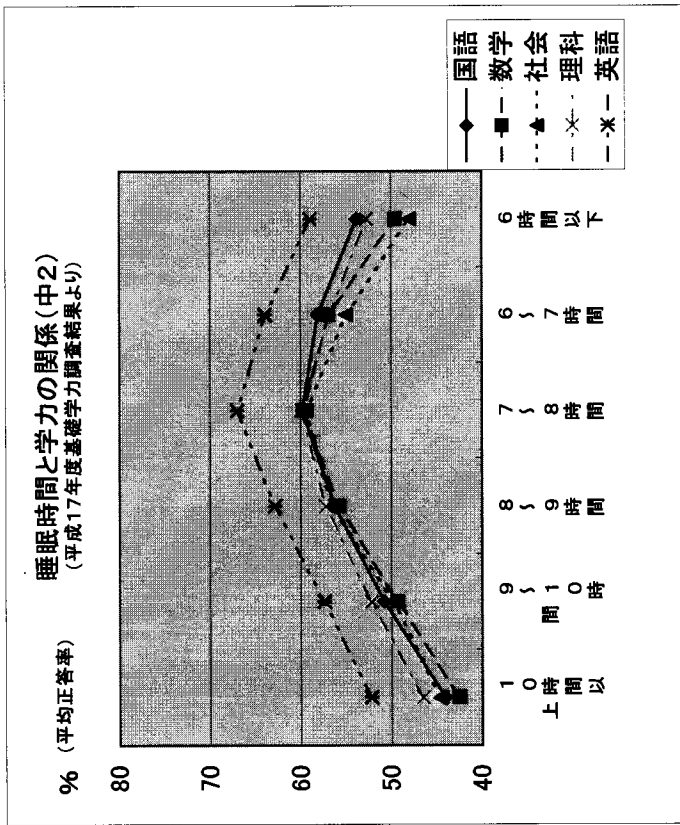
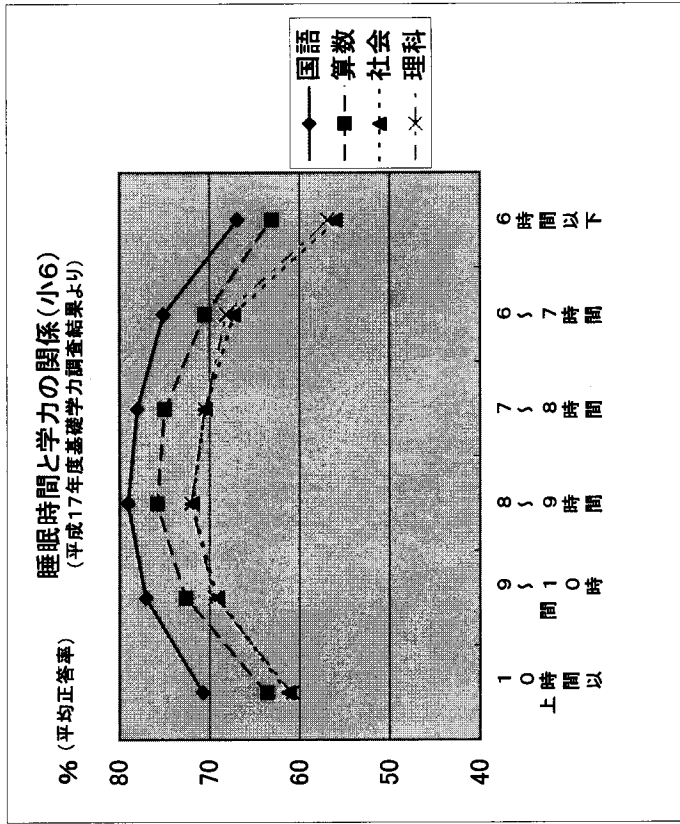
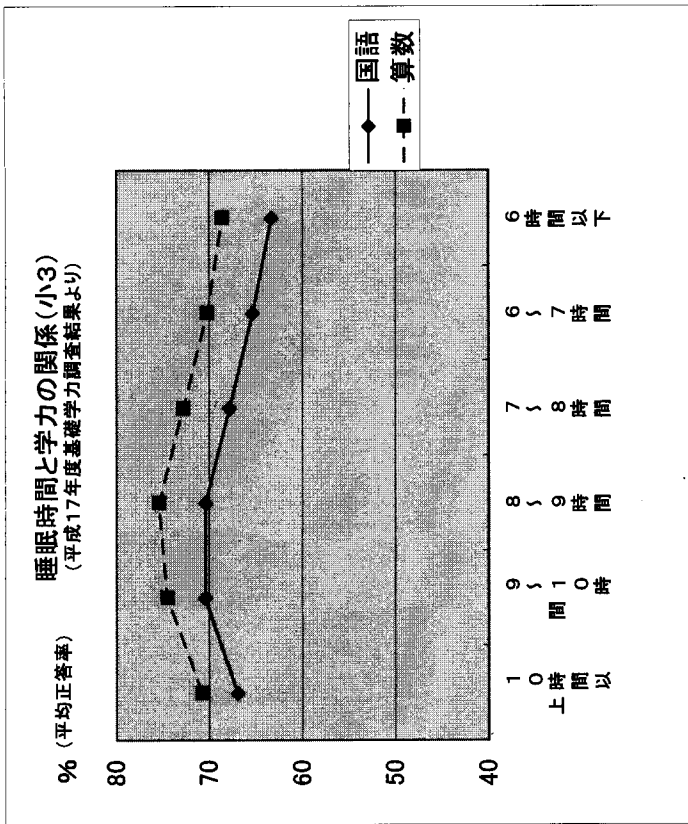


テレビ視聴時間と学力の関係(小6)
(平成17年度基礎学力調査結果より)

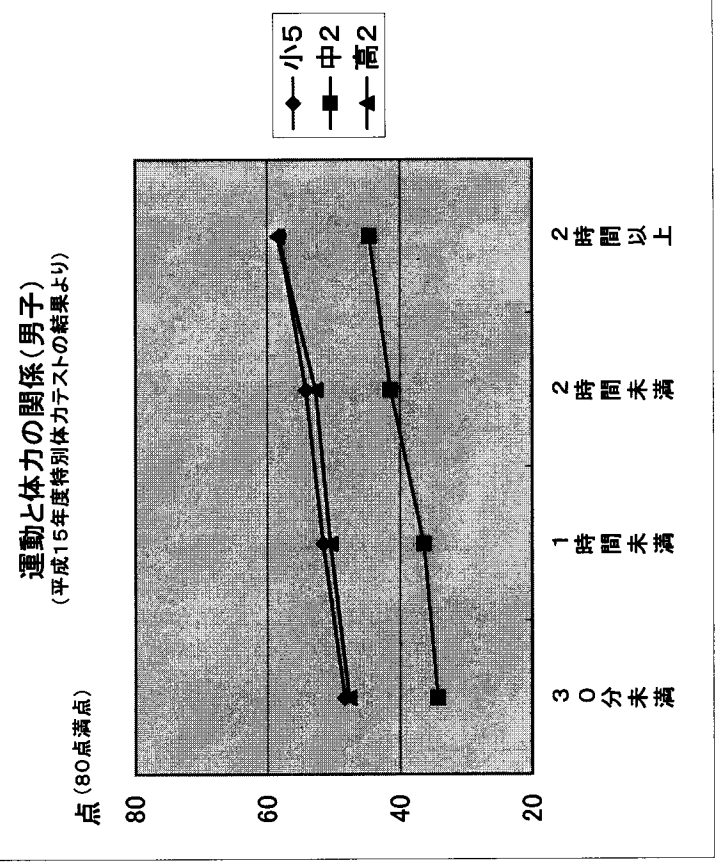
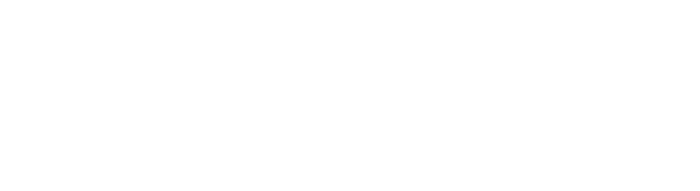
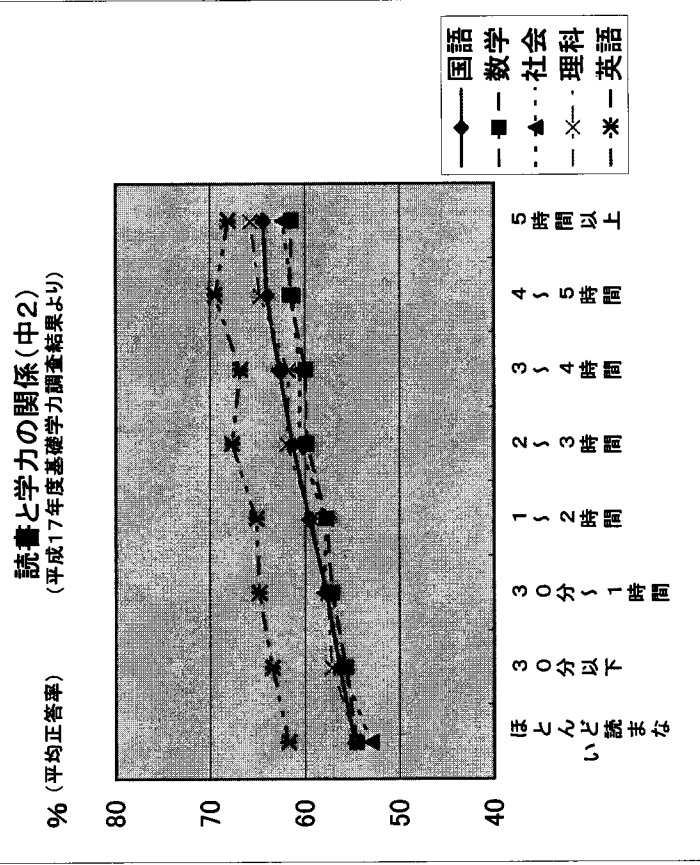


テレビ視聴時間と体力の関係(男子)
(平成15年度体力特別テスト結果より)





社会のルール・マナーと学力の関係
(平成17年度基礎学力調査結果より)



とっとりの教育 (試作版・抜粋)



鳥取県教育委員会

2006/5/18

1

課 題(1)

○知(学力)の面

概ね良好であるが基本となる学ぶ意欲や集中力が不足

○徳(人間性)の面

優しさ・思いやり・たくましさ・感動する心・正義感・規範意識・人間関係を結ぶ力・忍耐力など、人間として基本的な部分が低下

○体(健康な身体)の面

体格的には向上しているが、体力が低下傾向

2006/5/18

2

課 題(2)

○社会や自然・生活面での子どもたちの「体験・経験」の不足

○子どもの育成の第一義的責任は家庭。しかし、本来家庭・地域が果たすべき機能(躰・規範意識の醸成など)が学校任せになる傾向

→家庭・地域の教育力の充実が必要

2006/5/18

3

取組みの方向性

○「知」「徳」「体」を通じたバランスの取れた人格の形成が大切

○大人が家庭・地域で子どもたちとしっかり向き合い、その中でたくましい生き方や人間性を育む

○学校では、教員が児童生徒としっかり向き合う



人間性や学力の向上

2006/5/18

4

少人数学級の実施状況(H17)

◇小学校1、2年生(30人学級)

・84学級増 → 84人教員増

◇中学校1年生(33人学級)

・25学級増 → 35人教員増

◇上記以外の学年における少人数学級

・小学校:3学級増 → 3人教員増

・中学校:6学級増 → 7人教員増

2006/5/18

5

○家庭・地域が一体となった規則正しい生活習慣・生活リズムづくり

・心とからだ いきいき(食・読・遊・寝)キャンペーン

・育ちと学びをつなぐ幼保小連携推進事業(H18新規)

○大人が家庭・地域で役割を果たすためには企業の協力も大切

・家庭教育推進協力企業制度

2006/5/18

6

朝の読書実施状況(H18.3.31)

読解力アップへ

(注)朝の読書推進協議会調べ

	小学校	中学校	高等学校	計
鳥取県 (全国順位)	99% (1)	92% (2)	54% (6)	92% (1)
全 国	61%	57%	29%	55%

2006/5/18

7

利用が広がっ
ていない

◇遊びの王様ランキングの利用状況

【H15】 23校 延べ258グループ

【H16】 延べ20校 延べ329グループ

【H17】 延べ36校 延べ413グループ

当面の目標:旧39
市町村に1カ所ずつ

◇総合型地域スポーツクラブの設立状況

【設立済】 9団体:鳥取市4、米子市2、倉吉市1
智頭町1、北栄町1

【H18設立】 5団体:鳥取市3、三朝町1
湯梨浜町1

【H19設立予定】 9団体

2006/5/18

10

8



○不登校対策

- ・学校の相談体制の充実

スクールカウンセラー(中学:全校、高校:15校)、子どもと親の相談員(13校)、不登校加配教員(43人)などの配置

- ・再登校への支援

教育支援センター(9カ所)の設置、学習支援員の配置、不登校児童生徒の適応指導にかかる連携推進事業

2006/5/18

9



○心や性等の健康問題対策

- ・性教育や具体的支援のあり方を検討する性教育推進委員会を設置
- ・学校へ医師、臨床心理士等の専門家を派遣し、講演会等を開催
- ・管理職、学校保健担当者を対象に性教育研修会を開催

2006/5/18

11

10

県の「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」の取組み

啓発活動

- 教育だより「とっとり 夢ひろば」（保・幼・小・中・高・盲・聾・養護学校の全保護者へ配布）にシリーズ化して掲載
- 3媒体（テレビ、ラジオ、新聞）を活用した広報（18年2月放送・掲載）
- チラシ（2万部）を各種大会等で参加者に配布
- ポスター（4.5千部）ステッカー（2種、各5千部）を市町村教委・学校・企業等に配布
- ホームページ(<http://www.pref.tottori.jp/kyouiku/ikiikikyanpen/index.htm>)を開設し、キャンペーンの周知を図るとともに、協賛企業・団体等を募集・紹介
- 家庭での「我が家のイチ押し実践」を募集・表彰するとともに、優秀実践事例を紹介（表彰：17年12月）
- 市町村教委、教育関係団体の取組を紹介
- 関連する事業の実施にあたり、キャンペーンロゴを看板・印刷物等に掲載
- 広告塔（県庁前、鳥取・倉吉・米子駅前）に掲載（18年4月下旬～6月末）

要請活動

- 市町村教委及び学校等に対し、キャンペーン関連事業の実施及びキャンペーンロゴの使用等について協力を要請
- 商工会議所と意見交換会を実施し、会員企業・従業員へのキャンペーンの周知及び賛同した取組等について協力を要請
- 県PTA協議会、県高等学校PTA連合会との意見交換会で、周知及び協力を要請
- 地産地消コーナーを設置する量販店・金融機関等にポスター・ステッカーの掲示を要請

関連事業の実施

- みんなで進める教育県民大会
- 高校生マナーアップさわやか運動
- 企業との連携による子育て環境整備事業
その他、様々な事業を実施（詳しくは、「キャンペーン関連事業」（県分）参照）

家庭や地域の大人が「子どもたちとしっかり向き合う」ことが大切で、教委や学校だけでなく、団体・地域・企業など、広く草の根的に取り組んでいくことが必要

推進会議

地域全体の取組へ → 県民運動的な広がりとし盛り上がりを目指す

- キャンペーンを自分自身の問題として積極的に取り組んでいる団体や支援している団体で組織する「キャンペーン推進会議」を設置し、草の根の取組みを推進
- 推進会議の開催にあたっては、各種の団体に加入・出席を呼びかけたほか、市町村教委および学校等にも、団体への声かけを依頼 → 随時、加入できる
- 主な構成団体（計75団体）
 - ・ PTA関係
 - ・ 公民館、子供会、ボーイスカウトなどの社会教育関係
 - ・ 商工会議所などの経済団体関係
 - ・ 校長会、学校図書館協議会、学校栄養士協議会などの学校教育関係

朝食はやる気・学力・体力の巻

早起きをするためには早寝をさせましょう。

できるだけ子どもといっしょに食べましょう。

起きてすぐには食欲がわきません。親が早起きに付き合う努力が必要です。

子どもの食事作りを通じて、親自身の食生活が円滑されます。

寝る前の飲食はひかえさせましょう。

子どもときの食習慣が、大人になっても影響します。



南都町教育振興会(保育園・小学校・中学校・教育委員会)は、健康福祉課などの関係機関と連携し、南都町の子どもの連の健全育成に向けて活動をしています。

平成15年度(会見地区)・16年度(西伯地区)に行った生活習慣に関するアンケート結果より、南都町の子どもの連には次のような傾向が見られます。

- ・【寝る時刻が遅い】
- ・【朝氣持ちよく起きていない】
- ・【毎朝きちんと朝食を取っていない】
- ・【勉強時間が短い】
- ・【テレビ視聴やゲームをする時間が長い】

- ・【午前中体のエンジメンが からない】
- ・【集中力や落ち着きが足りない】
- ・【体力不足】
- ・【やる気の低下】といった状況を 生み出す一因になっていきます。

生活習慣と園や学校での生活は密接な関係がありますが、その中でも「朝食をきちんと食べる」ことは、生活習慣の根幹をなすものです。なぜなら、「朝食をきちんと食べる」ためには、就寝時刻・起床時刻、ひいては家に帰ってからの生活にもつながってくるからです。

「朝食を必ず食べよう」キャンペーン実施中

《特色あるPTA活動事例》

中学生の食生活を考える取り組みについて

鳥取市立佐治中学校 P T A

1 取り組みの経過

中学生にとつて、「食」は心と体の健康の源です。近年、生活スタイルや食環境の変化にともなない、中学生の体位や体力の低下、成人病の低年齢化、生活リズムの変化、集中力や耐性の低下などが問題となっています。保健室での子どもの美態からの問題提起や、給食に関する保護者・学校栄養職員からの要望、学校保健委員会の指導助言などを受け、PTA母親委員会が中心となつて、7年前から、中学生の食生活を考える取り組みを推進しています。

2 食事や生活についての調査

「朝食」「おやつ・夜食」「便通」「起床・就寝時間」「疲れやすさ・根気」「ダイエット」などの項目について、平成11年度に調査・集計・分析を行いました。朝食については食べない理由、おやつ・夜食についてはどんなものを食べるか、さらに、食生活や心身の健康についての悩みなども問いました。結果は、「母親委員会だより」「保健だより」で広報活動を行うとともに、関係機関と連携した活動の工夫により、さまざまな場面で活用しました。

3 夏休みチャレンジメニュー

夏季休業中、給食にかわつて家庭で昼食を摂ることになります。家庭に常備してありそうな材料を使って中学生が簡単に調理でき、栄養バランスのとれたメニューを、母親委員会が募集し、冊子にして配布しています。たとえば「まぜるだけ」のせるだけ～ツナときゅうりの混ぜご飯「ちよつ」と手を加えて～キヤベツの落とし卵「切つて混ぜて焼くだけ～校長先生のお好み焼き」などです。毎日工夫をこらして、「ちよつとおやつタイム」「○○のおすすぬメニュー」「おすすめデザート」など特集し、夏休み後には、活用状況や感想を返してもらっています。

4 チャレンジクッキング

本年度は、チャレンジメニューをもとに親子で料理教室を行いました。ギョーザづくりにはチャレンジ。多数の参加があり好評でした。

5 給食試食会

中学生がどんな給食を食べたいか知りたいという、母親委員の声により給食試食会が始まりました。今では、中学校生活が最後になる3年生の保護者にも案内しています。給食の様子を参観したり、栄養士さんの話を聞いたり、毎年恒例の楽しい企画になっていきます。今後、連携しながら、子どもたちの「豊かな食」のための活動を推進したいと考えています。

平成18年度「高校生 マナーアップ さわやか運動」について

1 趣 旨

鳥取県教育委員会では、『心とからだいきいきキャンペーン』を実施している。その一環として、身だしなみを整え、ルールやマナーを守ることが、高校生の規範意識を育成し、社会の一員としての自覚を高めることにもつながることから、地域社会全体で「高校生 マナーアップ さわやか運動」を実施し、高校生のマナーアップを推進する。

2 主 催 鳥取県教育委員会 鳥取県企画部 青少年育成鳥取県民会議

3 協 力 西日本旅客鉄道株式会社米子支社 NPO法人等青少年育成団体

4 運動の名称 「高校生 マナーアップ さわやか運動」

5 運動の期間 ① 平成18年4月25日(火)～28日(金)

参加者約540名

(教育委員会職員、県職員、県民会議、NPO法人、教職員、生徒、保護者)

② 平成18年9月19日(火)～22日(金)(予定)

6 実施場所及び時間

- (1) 場 所 JR主要駅または各学校最寄りJR駅及び各学校校門付近
(鳥取、倉吉、米子、岩美、津ノ井、八頭高校前、郡家、智頭、鳥取大学前、青谷、東山公園)
- (2) 時 間 午前7時30分～8時30分(生徒の登校時刻にあわせ弾力的に実施)

7 重点指導事項

高校生としてプライドのある言動ができるよう、次の取組みを行う。

- (1) さわやかなあいさつ
○明るくさわやかにあいさつをしましょう。
- (2) さわやかな服装
○高校生らしい品位のあるさわやかな服装を心がけましょう。
- (3) さわやかなマナー
○社会のルールを守り、他人の迷惑になる行為はやめましょう。

8 参加者の主な意見・感想

- ・昨年度と比べ、シャツ出しが目立ちませんでしたし、格段によくなっていると感じた。
- ・高校生はとまどっている様子もありましたが、挨拶をされると素直に挨拶が返ってきた。
- ・駅員の方や他の大人が、高校生を育てるという意識になれる活動になればと思う。ターゲットは大人なのかもしれない。
- ・一過性のイベントに終わることなく、社会全体の意識に根付くまでがんばりましょう。そのためには、高校生のみならず、小中学生及びその保護者にも意識を持たせるような働きかけを行うなど社会全体の運動が必要になると思う。
- ・もう少し早く知らせて欲しかった。女性の先輩として列車に乗り、さらなるマナーアップに努めたい。＜青少年育成県民会議からの意見＞
- ・短期間に大勢でするよりも、毎日少人数でよいから期間を長く取り組んで欲しい。駅に立つだけでなく、列車内の様子を見て欲しい。＜駅員さんからの意見＞
- ・服装・乗車マナーもだが、自転車での登校状態が危険である。＜駅利用者からの意見＞

「心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」関連事業（県分）

No. 1

事業名	事業内容	事業対象	備考 (期間等)	所管課
心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン	<p>推進会議を設置 啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とっとり夢ひろば」への掲載（シリーズ化） ・学校・地域・団体等の優れた取組みを表彰 ・キャンペーン協賛企業・団体等の募集・活動の紹介 等 <p>関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンペーン強調月間（6月）を設定し、関連事業を集中的に実施 ・キャンペーン事業の実施団体の取組みを保護者や県民等に紹介 <p>すべての大人が教育者であるとの基本理念のもと、県民が一丸となって行動することの重要性について、県民の皆さんとともに考え、県民あげての教育運動をより一層発展させる契機とする。</p>	保護者、県民	平成19年度まで	教育総務課
みんなで進める教育県民大会	<p>すべての大人が教育者であるとの基本理念のもと、県民が一丸となって行動することの重要性について、県民の皆さんとともに考え、県民あげての教育運動をより一層発展させる契機とする。</p> <p>開催日時：11月4日（土） 12：30～16：40</p> <p>開催場所：県民ふれあい会館大ホール</p> <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 ・教育長表彰 学校・地域・団体等で実践している優れた取組みを表彰 等 ・地域活動の紹介 ・パネルディスカッション 	県民	継続	教育総務課
教育だよりの発行	<p>県教委や市町村教委の取組、学校生活の状況等、教育に関する情報を保護者等に発信し、子どもたちの教育について関心を持っていただく。</p>	保護者、教職員	継続 (年6回)	教育総務課

「心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」関連事業（県分）

No. 2

事業名	事業内容	事業対象	備考	所管課
鳥取県道徳教育研究大会	幼・小・中・高校を見通した道徳教育の諸課題に関する講演・演習などを行う。	県内及び全国の教育関係者	1年	小中学校課
育ちと学びをつなぐ幼保小連携フォーラム	幼児教育と小学校入門期のスムーズな接続のため、幼稚園・保育所と小学校との連携の取組実践について情報発信するとともに、県内全域で幼保小連携の推進と啓発を図る。	県内教育関係者及び保護者	1年	小中学校課
読書キャンペーン活動支援事業	学校図書館や読書活動に興味・関心を持たせるための、学校独自の様々な活動を支援する。	県立高校全校	未定 (継続)	高等学校課
集団読書の推進	同一本を集団で読み、感想文や話し合いで思考を深める。	県立高校15校	未定 (継続)	高等学校課
蔵書充実事業	専門書等を整備して、魅力ある学校図書館作りを進める。	県立高校13校	未定 (継続)	高等学校課
高校生マナーアップさわやか運動	高校生の規範意識を育成し、社会の一員としての自覚を高めるため、地域と連携して活動に取り組む。	県立高校全校	未定 (継続)	高等学校課
みんなで取り組む子ども育成事業	テレビやゲーム、インターネット等が子どもに与える影響についての学習や、家庭の教育力向上を目的とした基本的な生活習慣の定着等の具体的な対応の研究とその推進を鳥取県PTA協議会と連携して実施する。	県PTA協議会	平成18年度	家庭・地域教育課
メディアとの接し方啓発推進事業	子どもとメディアとの関わりを巡る諸問題の解決に向けた普及啓発や指導者養成などを、メディアの送り手側も含めた関係団体で構成する実行委員会に委託して実施する。	鳥取発メディアとの接し方フォーラム実行委員会	平成19年度まで	家庭・地域教育課
地域の子育て支援体制構築事業	公民館を中心に家庭教育相談員、家庭教育支援者セミナー受講生などをネットワーク化し、各家庭へ子育てに関する情報を届けるなど、地域コミュニティにおける子育て支援体制の構築によるモデル的な取組を行う市町村に対して経費を助成する。	市町村	平成18年度	家庭・地域教育課
県民自ら行う子育て学習支援事業	悩みや不安を抱える保護者からの電話相談等に応じるとともに、家庭教育啓発資料の作成により、家庭教育に対する県民意識の高揚を促す。	保護者、県民		家庭・地域教育課

「心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」関連事業（県分）

No. 3

事業名	事業内容	事業対象	備考	所管課
企業との連携による子育て環境整備事業	各企業（事業所）において、保護者である従業員が子育てしやすく、また、全ての従業員が子どもたちを健やかに育てる地域活動に参加しやすい職場環境づくりに自主的に取り組んでいただける企業（鳥取県家庭教育推進協力企業）と協定を締結し、企業における取組のPRや、家庭教育に関する研修等へ講師や相談員を派遣するなどの支援を行う。	企業		家庭・地域教育課
町村教育委員会支援事業	各町村がそれぞれの地域の実情に応じて、子どもたちをめぐる様々な課題を早期に解決できるよう、教育の専門職員である指導主事(地域教育担当)を派遣し、その経費の一部を助成する。	市町村	平成18年度	家庭・地域教育課
おじいちゃん、おばちゃんによる子育て講座開催事業	全ての世代が協力して子どもたちが健やかに育つ地域づくりが行われるよう、県連合婦人会への委託事業の成果冊子（「ふるさとととりの民話」「ふるさとの伝えたい味」「おじいちゃん、おばあちゃんの子育て知恵袋集」）を活用して、祖父母世代を講師にした親世代の研修会や、地域の子育て中の親、祖父母世代などの異世代が集い家庭教育と地域の関わりなどについて意見交換をする交流会を県内8会場で開催する。	鳥取県連合婦人会	平成18年度	家庭・地域教育課
子どもとメディア出前講座開催事業	情報化社会に生きる子どもたちのメディアリテラシー能力を育成するため、子ども（又は親子）を対象としたマスメディア（テレビ等）講座、パーソナルメディア（携帯電話等）講座の出前講座を県内5会場で開催する。	特定非営利活動法人子ども未来ネットワーク	平成18年度	家庭・地域教育課
心のふれあいプロジェクト実施事業	「乳幼児を持つ親」と「将来親となる小中学生」に子育て学習の機会を提供するため、「小児科医等による講義」と「乳幼児と小中学生のふれあい会」をセットした講座を県内4会場で開催する。	特定非営利活動法人未来	平成18年度	家庭・地域教育課
PTA指導資料作成事業	家庭、学校、地域を繋ぐPTAが、その機能を十分に発揮して子どもたちを健やかに育む環境が形成されるよう、指導資料を作成する。			家庭・地域教育課
PTA指導者支援事業	家庭、学校、地域を繋ぐPTAが、その機能を十分に発揮して子どもたちを健やかに育む環境が形成されるよう、新任PTA役員に対する研修を実施する。			家庭・地域教育課

「心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」関連事業（県分）

No. 4

事業名	事業内容	事業対象	備考	所管課
悩みを抱える子どもの社会参加促進事業	不登校などの悩みを抱える子どもたちの主体性・社会性を育むため、NPO法人等と連携して、自然体験や生活体験等の体験活動に取り組む機会を提供する。	特定非営利活動法人等		家庭・地域教育課
	不登校の子どもたちの自立を社会全体でどのように支えていくか考えるため、不登校の子どもたちの居場所（フリースペース）について考えるシンポジウムを開催する。			家庭・地域教育課
みんなで考える子どもの読書活動推進事業	「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン」に基づき、全県的に子どもの読書活動を推進していくための具体的取組について検討し、併せて実践事例集を作成する。			家庭・地域教育課
文字・活字文化振興事業	平成17年7月制定の「文字・活字文化振興法」の趣旨に従い、言葉の乱れと活字離れに歯止めをかけ、文字・活字や読書に親しむ気運を醸成するため、手紙、作文・小論文コンクール及び読書活動推進フォーラムを開催する。	フォーラムのみ実行委員会		家庭・地域教育課
青少年社会教育施設改善充実事業	豊かな自然の中で青少年の健全育成を行う船上山少年自然の家及び大山青年の家について、機能の充実や老朽化に伴う改善整備を行なう。			家庭・地域教育課
船上山少年自然の家運営費	少年の健全育成を図るための集団宿泊訓練の場を提供する。			家庭・地域教育課
船上山少年自然の家事業費	ロッククライミング教室、ファミリーキャンプなど11事業を展開する。			家庭・地域教育課
大山青年の家運営費	青少年の健全育成を図るための集団宿泊訓練の場を提供する。			家庭・地域教育課
大山青年の家事業費	エンジョイカヌー、親子エンジョイスキーなど10事業を展開する。			家庭・地域教育課
健全な食習慣定着推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・食指導のハンドブック作成 ・指導用教材の作成 ・保護者啓発資料の作成 	小、中、高、盲・聾・養護学校保護者	平成16年度～	体育保健課

「心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」関連事業（県分）

No. 5

事業名	事業内容	事業対象	備考	所管課
学校給食における学校・家庭・地域の連携推進事業	指定地域において、学校給食を中心として、学校、家庭、地域が連携を図った食育推進の取組を実施する。 ・意識調査の実施 ・食生活改善推進委員会との交流 等	日野町	平成17～18年度	体育保健課
学校給食用食材地産地消推進事業	・郷土の食材を通しての食育 ・啓発資料の作成 ・県民の日の一斉指導 等 ＜県学校給食会への委託＞ ・学校給食フォーラムの開催 ・給食会だよりを通して、食育の啓発	小、中、盲・聾・養護学校保護者	平成13年度～	体育保健課
児童生徒の体力向上事業	○体力向上キャンペーン（前掲） ・遊びの王様ランキング ・体力向上保護者啓発リーフレット作成配布 ・体力向上ポスター、パンフレット配布	小・中学生 保護者 学校、保護者	平成15～19年度	体育保健課
	○体力テスト事業 学校教育活動全体を通じた体力向上の取り組みを推進するために、児童生徒の体力・運動能力の実態と生活習慣の関連を明らかにし、学校における指導に生かす。 ・体力テスト調査 ・体力テスト委員会 ・体力テスト報告書	小・中・高等学校		体育保健課
とっとり広域スポーツセンター事業	各市町村で取り組まれている「総合型地域スポーツクラブ」の育成及び、運営を支援するため、講習会開催、指導者派遣等を行う。	地域住民一般	平成16～22年度（7年間）	体育保健課
メディアと子育て応援事業	・メディアと子育て実態調査の普及	県民	平成18年度	子ども家庭課
	・お父さんのための子育て出前講座	企業等で働く父親	平成18年度	子ども家庭課
	・子どもとメディア出前座談会	子育てサークル、保育所保護者会等	平成17年度～	子ども家庭課

「心とからだいきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」関連事業（県分）

No. 6

事業名	事業内容	事業対象	備考	所管課
子育て・親育ち応援事業	・家庭と育児力の実態調査 （鳥取大学へ委託）	県民	平成18年度	子ども家庭課
	・親支援プログラムの普及	子育てサークルリーダー、支援センター職員、保健師等	平成18年度	子ども家庭課
	・地域の子育て支援力強化	県	平成18年度～	子ども家庭課
	・子育て・異世代ふれあい交流	「心のふれあいプロジェクト」全国集会への助成	平成16年度～	子ども家庭課
「ちょっと気にしてあなたの食事」事業	食育推進事業	主に幼児・小学生を対象 ・県民	平成18年度	健康対策課
〃	「食の応援団」支援事業	・（社）鳥取県栄養士会 ・鳥取県食生活改善推進員連絡協議会	平成18年度	健康対策課

海潮音

大型連休も終わり、学校や家庭では日常の生活が再開した。本格的な新学期

スタートともい

える。連休明けが直らない子どもたちは生活のリズムを取り戻すことが大切だ。そして基本的な生活習慣を身に付けることも心掛けたい◆テレビ、ゲーム、携帯電話、インターネット…。子どもたちを取り巻く世界は、大人がついていけないほど大きく変化、子どもの基本的な生活習慣が大きな危機に直面しているという。寝不足で集中できない、不規則な食生活、テレビばかりで本を読まない―など、教育現場での悩みは深い◆こんな悩みを解決しようと鳥取県教委は「心とからだ いきいき(食・読・遊・寝)キャンペーン」を展開している。呼び掛けているのは六つのポイントだ。

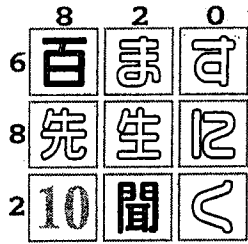
- ①しっかりと朝食を食べよう
- ②じっくり本を読もう
- ③外で元気に遊ぼう
- ④たっぷり寝よう
- ⑤長時間テレビを見るのはやめよう
- ⑥服装を整えよう◆県内の各学校、各市町村でもあいさつ運動、ノーテレビデー、読書ラリー、家族とごはんを食べる取り組みなど、独自の取り組みが続いている。若者の新聞離れに悩む新聞社も無縁ではない。日々の積み重ねで活字に触れる習慣もぜひ身に付けてほしい◆六月はキャンペーン強調月間。正しい生活習慣は本来家庭で身に付けるべきもの。家庭で取り組むことで学校をバックアップし、学校では学校本来の教育を取り戻す意味もある。大人たちの責任で子どもの生活習慣を見つめ直したい。

子供の「学力低下」が問題視されて久しい。文部科学省は、ゆとり教育推進から教育政策の「かじ」を切り、世界に誇る教育国・日本の復権を目指し始めた。そんななか、「百ます計算」で勇名を挙げた陰山英男氏が、今春京都市に開校した立命館小学校の副校長に就任した。自らの教育理念を同小で実践し、立命館大教授として教員も養成する。子供たちの学力を再び引き上げるモチルをつくりたいという陰山氏に聞いた。

(林英樹)

——学力低下の原因はどこにあると考えますか
陰山 最大の原因はゆとり教育よりもまず、睡眠不足や朝食を抜くなどの栄養不足、それに家族との時間の不足にある。愛情はあるが、それを表現するための「言葉の時間」を失っていることが問題だ。

——果たすべき家庭の役割とは
陰山 学校はきちんとして子供に勉強をさせる。家庭はしつけをして愛情豊かに育てるべきだ。だが、残念ながら、学校よりも家庭でこの図式が崩れている。例えば朝ごはん。保護者から、経済的理由ではなく、子供の寝坊や夫婦共働きの理由で「食べさせられない家庭」



学力低下

はどつすばいのですか」と平然と聞かれ、あきれたことがある。家庭で教えるべきこの優先順位は変わってしまったが、学校はそんなに変わっていない。社会が夜型化したからといってフレックス制を導入する学校なんてない。学校は「分業」から「専業」(でも)がよい。

——「分業」から「専業」がよい。

学力低下の背景に生活習慣の乱れがある、と指摘する陰山氏



反復学習で脳を元気に

陰山 一言でいうと「脳の元気」。一定時間内にどれだけの情報を、より的確に処理できるか。そのために効果的なのが百ます計算に代表される読み書き計算の反復学習だ。脳の神経が太くなり、一つの課題について多様な処理ができて、確かな判断を下せる。今の教育は基礎ができていないのに応用力を身につけさせようとしており、うまく機能していない。

——ゆとり教育とは何だったのか
陰山 そもそもゆとり教育は詰め込み教育への批判から生まれた。例えば、折紙、あやとり、習字、そろばん…。実は日本人が大切にしてきた学習法や遊びはすべて脳を元気にする方法だった。ペリーが黒船で日本に来たとき、「この民族の知的レベルは非常に高い」と記した親書を大統領に送ったほど、当時の武士も庶民も賢かった。

——ゆとり教育とは何だったのか
陰山 そもそもゆとり教育は詰め込み教育への批判から生まれた。例えば、折紙、あやとり、習字、そろばん…。実は日本人が大切にしてきた学習法や遊びはすべて脳を元気にする方法だった。ペリーが黒船で日本に来たとき、「この民族の知的レベルは非常に高い」と記した親書を大統領に送ったほど、当時の武士も庶民も賢かった。

——ゆとり教育とは何だったのか
陰山 そもそもゆとり教育は詰め込み教育への批判から生まれた。例えば、折紙、あやとり、習字、そろばん…。実は日本人が大切にしてきた学習法や遊びはすべて脳を元気にする方法だった。ペリーが黒船で日本に来たとき、「この民族の知的レベルは非常に高い」と記した親書を大統領に送ったほど、当時の武士も庶民も賢かった。

〇〇七年問題」。団塊世代のベテラン教師が一気に引退し、基礎知識の足りない若い教師が入ってくる。それが庶民の知恵ではなかったか。

——教師が現状に対応はなかったか。

陰山英男 昭和33年、兵庫県生まれ。岡山大法学部を卒業後、教員免許取得。兵庫県朝来町(現・朝来市)立山口小に在職時、「百ます計算」など反復学習を取り入れた「陰山メソッド」を確立し、教え子の多くを国公立大に進学させた話題に。平成15年に公募で広島県尾道市立立命館小学校の校長、今春から私立立命館小の副校長兼立命館大教授に就任した。

授業にならない!! 「小1問題」深刻

広がる幼保小連携

小学校に入学したばかりの児童が落ち着いて授業に取り組めない「小1プロブレム(問題)」が深刻化する中、対策として、保育園や幼稚園と小学校の「幼保小連携」が全国で広がっている。鳥取県内も取り組みが広がっており、県教委は本年度、連携の在り方を模索する新事業に乗り出す方針を決めた。一方で形がイ化した取り組みも少なくなく、現場からは「連携する時間がない」といった悩みの声も。現状を取材した。

(本社・田村彰彦)

■役割を明確に

鹿野小(鳥取市鹿野町鹿野、石黒幸子校長)は、統合してスタートした五年前から幼小連携を活発に進めてきた。「幼稚園の段階で子どもに何をすべきか、小学校はどのように子どもを受け入れるか。連携によって具体的に知ることができる」。教務主任の小谷喜美子教諭はそう話す。

同校と近くの幼稚園は、教

職員同士の意見交換会(幼小園を訪ねて園児に歯磨きの仕(連絡会)や授業参観、体験入方を教えたり、絵本の読み聞学などを実施。小学生が幼稚かせも。逆に、園児は小学校



園児と触れ合う岸本小学校の児童(右)。円滑な連携を進めるには、相互の教育を知ることが欠かせない。伯耆町のふたば保育所(写真と本文は関係ありません)

の図書室やランチルームを利用するなどしてきた。小谷教諭は「基本的な生活習慣が身に付いていない新入児童が増えた。双方の役割を明確にして対応しなければ」と指摘する。

■発達プログラム

一方、琴浦町教委は昨年度末、八橋小と八橋保育園、八橋幼稚園をモデルに「幼保小発達プログラム」を開発した。本年度は町内すべての小学校と保育・幼稚園でプログラムを実践する。「育ちの連続性を意識した指導が可能になる。幼児教育と小学校教育をうまく接続する仕掛けが必要だ」。岡本敏明指導主事は力を込める。

■課題は山積

県教委によると、県内の幼保小連携の取り組みは年々増えているが、教職員の相互理解にまで至っていないのが現状だ。

「双方の実態を把握するには時間が足りない。教職員に

「時間、理解が不足」悩む現場

「はゆとりがない」と漏らすのは鹿野小の石黒校長。同小の幼小連絡会の正式な開催はわずか年二回。「情報交換を密にし、子どもがもっと行ったり来たりするような連携にしなければ」と続けた。

また、家庭の教育力も問題になっており、岡本指導主事は「保護者を含めた連携を進めていくべき」と強調する。

■県教委も新事業

「一時間もいすに座ることができない新入児童が多く、授業が成り立たない」(県東部の小学校長)。一九九〇年代から指摘される「小1プロブレム」などの問題を踏まえ、県教委は本年度、「育ちと学びをつなぐ幼保小連携推進事業」の導入を決めた。

教職員や保護者、学識経験者らで「幼保小連携推進協議会」を五月に立ち上げ、解決に向けた取り組みを検討。合同研修会の開催や実態把握のアンケート調査を行う。

県教委小中学校課は「連携は進んでいるが、形がイ化しているところが多い。学校は連携の時間を持てるような体制づくりを組織的に進め、教職員同士が相互理解できるよう工夫してほしい」としている。

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」に関するアンケート調査結果の概要

1 調査時期 平成18年3月

2 調査対象 国立・公立・私立の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校

3 結果概要

① 回答状況

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
対象数	206	44	158	62	30	500
回答数 (%)	129 (62.6)	43 (97.7)	153 (96.8)	61 (98.4)	27 (90.0)	413 (82.6)

② キャンペーンを知っているか（%は回答数に対する比率、以下同じ。）

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
知っている (%)	119 (92.2)	40 (93.0)	152 (99.3)	61 (100.0)	26 (96.3)	398 (96.4)

③ キャンペーンの趣旨等をどう思うか

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
賛同し、協力する (%)	112 (86.8)	34 (79.1)	145 (94.8)	48 (78.7)	14 (51.9)	353 (85.5)
賛同するが、特段の取組みは行わない (%)	7 (5.4)	2 (4.7)	6 (3.9)	12 (19.7)	10 (37.0)	37 (9.0)

④ キャンペーンの保護者・児童生徒への周知は（複数回答あり）

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
校内にポスター・ステッカーを掲示 (%)	83 (64.3)	11 (25.6)	101 (66.0)	38 (62.3)	8 (29.6)	241 (58.4)
PTA・保護者会で話をした (%)	23 (17.8)	12 (27.9)	92 (60.1)	20 (32.8)	5 (18.5)	152 (36.8)
学校便り・PTA広報誌等に掲載 (%)	38 (29.5)	11 (25.6)	79 (51.6)	15 (24.6)	3 (11.1)	146 (35.4)
全校児童生徒の前で話をした (%)	18 (14.0)	10 (23.3)	40 (26.1)	8 (13.1)	5 (18.5)	81 (19.6)
周知していない (%)	21 (16.3)	4 (9.3)	9 (5.9)	6 (9.8)	12 (44.4)	52 (12.6)

⑤ キャンペーンに関連した取組を実施しているか

	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
実施している (%)	68 (52.7)	19 (44.2)	132 (86.3)	34 (55.7)	11 (40.7)	264 (63.9)

キャンペーンに関するアンケート調査結果

幼稚園	(1-1) キャンペーンを知っているか		(1-2) キャンペーンをどこで知ったか				(1-3) キャンペーンをどう思うか							(2) 周知の方法							(3) 全園児・生徒に話した回数	(4) 便り・掲載回数への掲載回数			(5) 学習・活動したクラス	(6) 保護者会で話した回数	(7) キャンペーンに関連した取組				
	①知っている	②知らない	テレビ	ラジオ	新聞	その他	①賛同・協力する	②賞のみ	③問題意識なし	④問題意識あり	⑤問題意識なし	⑥その他	⑦金生・生徒の前で話した回数	①便り・掲載	②便り	③便り	④保護者会等での話し	⑤ポスター、ステッカー	⑥周知せず	⑦その他	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①便り	②便り	③便り	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①実施している	②実施していない
公立(14)	12	2	11	8	1	0	0	1	10	1	0	0	2	6	6	3	3	10	1	0	21	13	3	1	2	1	2	1	8	5	9
国立(1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
私立(29)	27	1	27	12	2	0	2	1	23	1	3	0	0	4	5	4	9	3	3	3	6	8	6	1	4	0	17	13	14		
計(44)	40	3	39	21	0	3	0	2	34	2	4	0	2	10	11	7	12	11	4	3	27	21	9	2	6	1	25	19	23		

保育所	1-1		1-2				1-3							(2) 周知の方法							(3) 全園児・生徒に話した回数	(4) 便り・掲載回数への掲載回数			(5) 学習・活動したクラス	(6) 保護者会で話した回数	(7) キャンペーンに関連した取組				
	①知っている	②知らない	テレビ	ラジオ	新聞	その他	①賛同・協力する	②賞のみ	③問題意識なし	④問題意識あり	⑤問題意識なし	⑥その他	⑦金生・生徒の前で話した回数	①便り・掲載	②便り	③便り	④保護者会等での話し	⑤ポスター、ステッカー	⑥周知せず	⑦その他	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①便り	②便り	③便り	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①実施している	②実施していない
公立(149)	86	5	73	29	1	0	3	3	76	4	2	0	0	5	11	29	7	17	57	13	2	42	132	8	53	7	0	48	46	39	
私立(57)	43	5	35	11	1	0	2	0	36	3	0	0	4	7	9	3	6	26	8	3	23	34	1	0	3	0	10	22	20		
計(206)	129	10	108	40	0	2	0	5	112	7	2	0	9	18	38	10	23	83	21	5	65	166	9	53	10	0	58	68	59		

小学校	1-1		1-2				1-3							(2) 周知の方法							(3) 全園児・生徒に話した回数	(4) 便り・掲載回数への掲載回数			(5) 学習・活動したクラス	(6) 保護者会で話した回数	(7) キャンペーンに関連した取組					
	①知っている	②知らない	テレビ	ラジオ	新聞	その他	①賛同・協力する	②賞のみ	③問題意識なし	④問題意識あり	⑤問題意識なし	⑥その他	⑦金生・生徒の前で話した回数	①便り・掲載	②便り	③便り	④保護者会等での話し	⑤ポスター、ステッカー	⑥周知せず	⑦その他	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①便り	②便り	③便り	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①実施している	②実施していない	
公立(157)	152	1	135	96	4	144	6	0	0	2	39	78	53	91	100	9	7	99	127	34	141	30	23	190	131	21						
国立(1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計(158)	153	2	136	97	5	145	7	0	0	2	40	79	54	92	101	9	7	101	128	35	142	31	23	193	132	21						

中学校	1-1		1-2				1-3							(2) 周知の方法							(3) 全園児・生徒に話した回数	(4) 便り・掲載回数への掲載回数			(5) 学習・活動したクラス	(6) 保護者会で話した回数	(7) キャンペーンに関連した取組							
	①知っている	②知らない	テレビ	ラジオ	新聞	その他	①賛同・協力する	②賞のみ	③問題意識なし	④問題意識あり	⑤問題意識なし	⑥その他	⑦金生・生徒の前で話した回数	①便り・掲載	②便り	③便り	④保護者会等での話し	⑤ポスター、ステッカー	⑥周知せず	⑦その他	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①便り	②便り	③便り	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①実施している	②実施していない			
公立(60)	59	0	44	31	1	3	3	46	12	0	0	1	8	15	10	20	38	5	4	13	10	5	18	5	5	36	32	27						
国立(1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
私立(1)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計(62)	61	2	46	31	3	48	12	0	0	1	8	15	10	20	38	6	5	13	10	5	18	5	5	36	34	27								

高等学校	1-1		1-2				1-3							(2) 周知の方法							(3) 全園児・生徒に話した回数	(4) 便り・掲載回数への掲載回数			(5) 学習・活動したクラス	(6) 保護者会で話した回数	(7) キャンペーンに関連した取組					
	①知っている	②知らない	テレビ	ラジオ	新聞	その他	①賛同・協力する	②賞のみ	③問題意識なし	④問題意識あり	⑤問題意識なし	⑥その他	⑦金生・生徒の前で話した回数	①便り・掲載	②便り	③便り	④保護者会等での話し	⑤ポスター、ステッカー	⑥周知せず	⑦その他	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①便り	②便り	③便り	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①実施している	②実施していない	
公立(24)	22	0	19	9	3	0	1	0	10	9	0	2	0	1	4	3	4	5	8	10	3	18	2	0	9	4	0	25	7	15		
私立(6)	4	1	4	0	0	0	0	4	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	4	1		
計(30)	26	1	23	9	3	0	1	0	14	10	0	2	0	1	5	3	5	5	8	12	4	19	2	0	9	5	0	25	11	16		

総合計	1-1		1-2				1-3							(2) 周知の方法							(3) 全園児・生徒に話した回数	(4) 便り・掲載回数への掲載回数			(5) 学習・活動したクラス	(6) 保護者会で話した回数	(7) キャンペーンに関連した取組				
	①知っている	②知らない	テレビ	ラジオ	新聞	その他	①賛同・協力する	②賞のみ	③問題意識なし	④問題意識あり	⑤問題意識なし	⑥その他	⑦金生・生徒の前で話した回数	①便り・掲載	②便り	③便り	④保護者会等での話し	⑤ポスター、ステッカー	⑥周知せず	⑦その他	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①便り	②便り	③便り	①全部のクラスで学習・活動	②一部のクラスで学習・活動	③その他	①実施している	②実施していない
学校等の数(500)	398	15	352	198	62	30	13	39	12	353	37	6	2	0	15	81	146	86	152	241	52	24	225	327	58	224	57	29	337	264	146
割合	96.4%	3.6%	88.4%	49.7%	15.6%	7.5%	3.3%	9.8%	3.0%	85.5%	9.0%	1.5%	0.5%	3.6%	19.6%	35.4%	20.8%	36.8%	58.4%	12.6%	5.8%	0.5	0.8	0.1	0.5	14%	7%	0.8	64%	35%	

※ () は、学校等の数。全体の回答率は82.6%

問(3)以降には、記述式の回答有り(次ページに掲載)

キャンペーンに関するアンケート調査結果（自由記述式）の概要

(問3) 全幼児・児童・生徒に周知した内容（複数回答）

平均回数	2.8回
------	------

- ・ 「6つの柱に関するもの」が、回答138件中129件（93%）を占めた。
- ・ 「6つの柱に関するもの」のうち
 - 「朝食・食育」31件（24%）、
 - 「6つの柱全体」21件（16%）、
 - 「睡眠・早寝早起き」20件（16%）、
 - 「読書・読み聞かせ」16件（12%）

(問4) 学校便り、PTA広報誌等に掲載した内容（複数回答）

平均回数	4.2回
------	------

- ・ 「6つの柱に関するもの」が、回答223件中197件（88%）を占めた。
- ・ 「6つの柱に関するもの」のうち
 - 「6つの柱全体」50件（25%）、
 - 「朝食・食育」41件（21%）、
 - 「キャンペーンの趣旨・キャンペーン紹介」23件（12%）、
 - 「睡眠・早寝早起き」21件（10%）、
 - 「ノーテレビ・メディアとの付き合い方」20件（10%）、
 - 「生活習慣と学力・体力」18件（9%）

(問5) 学級（組）で学習（活動）した内容（複数回答）

- ・ 「6つの柱に関するもの」が、回答116件中106件（91%）を占めた。
- ・ 「6つの柱に関するもの」のうち主に学習・活動した内容
 - 「朝食・食育」30件（28%）、
 - 「6つの柱全体」23件（22%）、
 - 「睡眠・早寝早起き」16件（15%）、
 - 「読書・読み聞かせ等」12件（11%）、
 - 「ノーテレビ等」12件（11%）

(問6) 保護者会・PTA会議等で話した内容（複数回答）

平均回数	2.2回
------	------

- ・ 「6つの柱に関するもの」が、回答216件中198件（92%）を占めた。
- ・ 「6つの柱に関するもの」のうち
 - 「朝食・食育」44件（22%）、
 - 「ノーテレビ等」34件（17%）、
 - 「6つの柱全体」32件（16%）、
 - 「キャンペーンの趣旨等」24件（12%）、
 - 「睡眠・早寝早起き」23件（12%）、

(問7) キャンペーンに関連した取組（複数回答）

- ・ 「6つの柱に関するもの」が、回答345件中253件（73%）を占めた。
- ・ 「テレビ・メディア関係」67件（うちノーテレビデー等47件）、
- ・ 「アンケートと結果集計に基づく指導」57件、
- ・ 「講演会・座談会」52件、
- ・ 「朝読書・読み聞かせ奨励」51件、
- ・ 「食育啓発・調理実習・会食等」37件 など

※ 保育所からテレビをすべて撤去し遊びが盛んに（保2件）、寝る前10分読み聞かせ（小）、掃除無しの外遊びデー（小）、スロートイム週間・家族の日週間（家庭での生活リズムや家族との交流促進）、ノーテレビデーを防災無線で町全体に告知（中）、着こなしセミナー（高）

(問8) 今後のキャンペーンに関連した取組予定（複数回答）

- ・ 「6つの柱に関するもの」が、回答317件中173件（55%）を占めた。
- ・ 「キャンペーンの趣旨・6つの柱・生活習慣について、便りや保護者会等で啓発」117件
- ・ 「これまでの取組を継続・充実」が、回答317件中106件（33%）を占めた。

(問9) 効果的な周知方法、その他キャンペーンについての意見

- ・ 各種の広報媒体（テレビ12件、夢ひろば9件、ポスター・ステッカー等6件など）での広報
- ・ 出前講演（7件）、講演会の開催（6件）、PTA研修・各種会合の場で取り上げる（6件）
- ・ 実践例の紹介（12件）

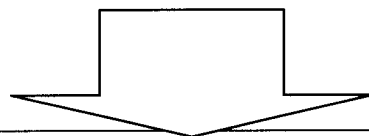
「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」強調月間の取組み

- 1 趣 旨** 6月を「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」の強調月間として、広報をはじめとする啓発活動を集中的に実施することにより、キャンペーンの一層の浸透を図る。

また、県・市町村・学校等が関連事業等を実施する際には、キャンペーンの啓発も行ってもらおうよう、特に強く要請する。

2 実施内容

- 「教育だより とっとり夢ひろば！」6月号にキャンペーン強調月間について掲載
- 広告塔（県庁正面及び鳥取・倉吉・米子駅前）に掲載（～6月末）
- 県政テレビ「とっとりWhy？」で放映（6月17日）
- 学校給食用牛乳パックにキャンペーンロゴを掲載（6月下旬～）
- キャンペーン関連事業を取りまとめ提供
- 市町村教委、学校、各種団体等にキャンペーン強調月間の設定を通知
- 市町村教委にキャンペーン関連の啓発活動（広報誌等への掲載等）及び関連事業の実施を依頼
- 各種大会等において参加者にチラシ等を配布
- 関連する事業の実施にあたり、「キャンペーン強調月間」及びキャンペーンロゴを看板・資料等に掲載
- 学校・地域・団体の優れた取組の募集開始（表彰は11月）



「強調月間」に関して、お願いしたいこと

- ① キャンペーンの趣旨と合致する事業で、6月中に実施できるものがあれば、「関連事業」として実施いただきたい。（行事の資料や看板にロゴを入れるなど）
- ② 6月に実施される「関連事業」を来週、5月26日（金）までに、連絡いただきたい。（既に予定されている事業で可。とりまとめて広報します）
- ③ 機会を捉えて、話題にさせていただくなど、広報をお願いしたい。

「心とからだ いきいき（食・読・遊・寝）キャンペーン」の今後の予定

- ① キャンペーン推進会議
 - ・ 保護者・県民への一層の浸透を図るため、加入団体の拡大（随時）
 - ・ 第2回会議（1月）
- ② キャンペーン関連事業を取りまとめ提供（5月下旬）
- ③ 県政テレビ「とっとりWhy？」で放映（6月17日）
- ④ 学校給食用牛乳パックにキャンペーンロゴを掲載（6月下旬～）
- ⑤ 学校・地域・団体等が実践する優れた取組みを募集・表彰・紹介
 - ・ 募集（6月下旬～8月下旬）
 - ・ 「みんなで進める教育県民大会」の中で表彰（11月4日）
 - ・ ホームページ、教育だより「とっとり夢ひろば！」等で紹介（12月～）
- ⑥ 新しいポスター・チラシの作成・配布（7月）
- ⑦ 保護者・県民等が集まる機会を捉えて出前説明（随時）
- ⑧ 教育だより「とっとり夢ひろば！」にシリーズで掲載（随時）
- ⑨ キャンペーンロゴを各種大会等の看板・資料等に掲載（随時）



今後、お願いしたいこと

- ① 各団体でキャンペーンに関連することを取り上げ、具体的な活動を行っていただきたい。
- ② 各団体のメンバーや保護者、地域の方に、子どもたちの生活習慣の大切さを伝えていただきたい。
- ③ キャンペーンロゴを積極的に使用していただきたい。
- ④ 広報紙等に掲載していただきたい。
- ⑤ 団体の活動状況や取組について、情報をお寄せいただきたい。適宜、取りまとめて、ホームページで公開したい。
- ⑥ 他の未加入の団体にも加入を呼びかけていただきたい。
- ⑦ 保護者・地域の方の集まりで説明したいので、機会があれば教えて欲しい。
- ⑧ 追って、団体の優れた取組を募集するので、広報及び応募いただきたい。